『復讐サロン』

※実際の作品とは微妙にセリフが異なる点がある場合があります

■キャラクター

●西郡アカネ　ニシコオリ　アカネ（CV茶介さん）

身長：175センチ
年齢：35くらい

サイコパス詐欺師。
柔和で優しい雰囲気があり、とてもウソをつくような人間に見えないが、苦しんでいる女性を見つけて「僕が助けてあげる」と言って信用させは、徹底的に堕落させて自殺に追い込むことを趣味にしている。
詐欺の目的が「お金を稼ぐこと」ではなくて「人を絶望させること」なので、相手を信じさせるためなら湯水のようにお金も使う。
ヒロインの名前は「思い出せない」。

●コンシェルジュ
苦しめられた女性の復讐をサポートする優しい人。
男をさらって身動きが取れない状態にして拷問する機材もそろえてくれるいい人。

■共通プロローグ　ウェル、ウェル、ウェル

なんてことのないリラクゼーションサロンの一室に訪れるヒロイン。
そこは非合法な復讐の手伝いをしてくれる、女性専用のサロンだが、とてもそうとは思えないほどやさし気で、穏やかなコンシェルジュが出迎えてくれる。
心傷つき、怒りに燃え、しかし常識と不安によって復讐に踏み切れずにいるヒロインを、コンシェルジュは優しく、ヒロインにとって本当に選ぶべき選択へと導いていく。
うさんくさい感じにならないよう、優しくしたわるように。

SE：ドアが開く
SE：ドアベル
BGM：心地よいカフェ

【9　遠めに】
コン「いらっしゃいませ。
ご予約のお客様ですよね？
お待ちしておりました。
どうぞ、こちらのソファに」

SE：足音
SE：ソファに座る

【1】
コン「さあ、聞かせていただけますか？
あなたがどれほど苦しめられたのか。
どれだけ怒りを抱き、憎しみにかられ、
そして、どれほどの勇気を振り絞ってここに来たのか。
資料は事前にいただいていますが……
お客様の口から、直接聞かせていただきたいのです」

【コンシェルジュ、立ち上がり、ヒロインの正面を行ったり来たりしながら】

【ヒロインの前を行ったり来たりしながら、最後に背後に立つ】

コン「ご存じの通り、当店は少々過激な方法によって、
お客様の心のケアをお手伝いしております。
お客様のように優しい方は、
その過激さに耐えられないことも多い。
ですが、報いを受けるべきクズというのは、
この世界に存在する」

【4　背後から囁く】
コン「あなたを苦しめた、あの男のように」

【4　耳元で】
コン「さぁ、思い出してください。
あなたが一体何をされたか。
それを話してもまだその男を許せると思った時は、
どうぞお帰りになってください。
けれど、やはり許せないと思った時は――ふふ。
目にもの見せてやりましょう」

【6】
コン「私と、あなたで――ね♡」

■トラック１　西郡

首を吊ろうとしているヒロインのところに、西郡から電話がかかってくる。
今そっちに向かってるから、そこで待っていてくれと懇願され、大人しく待つヒロイン。
そして「じゃあ目の前で首吊ってよ」と促されて、死ぬより殺そうと決意する。

【西郡、車でハンズフリー通話中】

SE：電話の呼び出し音
SE：電話を受ける電子音

【7】
西郡「【慌てて】あ、もしもし！
よかった、やっと出てくれた！
ごめん、今まで全然連絡できなくて。
凄く不安にさせたよね。
今、僕らの部屋にいるんだよね？
そこで待ってて、もうすぐつくから」

西郡「絶対に、一人で死んだりしちゃダメだよ？
あぁ、泣かないで。
部屋についたら、全部説明するから。
ずっと連絡できなかった理由も、
うん、そう。僕が君の女友達といた理由も」

西郡「ねぇ、楽しかったことを思い出そうよ。
たとえば、そうだな……僕が君に結婚を申し込んだ日。
君は凄く喜んでくれたよね。
幸せだって言って泣いたよね。
あの時、僕がどんなに幸せだったか君に伝えたいんだ」

SE：玄関ドア開く
SE：足音が近づいてくる
SE：リビングのドア開く

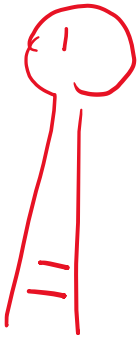
【9】※この音、加工して右耳（電話口）からも聞こえるようにしてください

西郡「ただいま！
よかった、まだ生きててくれたね」

SE：通話オフ

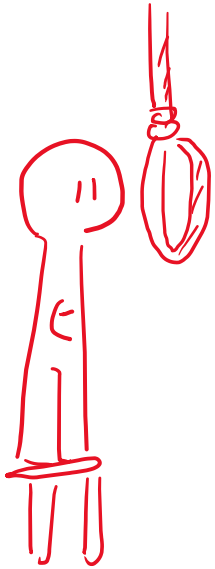
【ヒロイン、椅子の上に立ち、首吊りの輪の前で、電話を握り締めて立っている。】

西郡「えーと……なるほど、ふぅん……首吊りかぁ。
うん、いいと思うよ。
君にぴったりの古臭い死に方だ。
これと言った独創性もないし、
ここは賃貸だっていうのに、
大家さんに対する負担に思い至る思いやりもない。
見たところ、ビニールシートも敷いてないし……
死体を片付けてくれるだろう他人への配慮もない。
周りが全く見えてないその感じ……
凄くいいね！　君のそういう無様な最後が見たかったんだ！」



【ヒロイン、困惑する】

西郡「さ、縄を首に通して、
その椅子から飛び降りてくれ。ここで見てるから。
君が天井からぶら下がってる間に、
約束したことを話そうかな」



西郡「男に捨てられて泣いてた君を、
僕が慰めて、優しくして、大事にして、
自分は価値のある女なんだって思いこませてから、
君の元からさった理由。
知りたいだろう？
だからほら、早く首を吊ってよ」

【ヒロイン、椅子から降りる】

SE：椅子から降りる

【9】
西郡「あれ？　吊らないの？
なんだ……急いで見物に来たのに、つまらないな。
結局、ただのかまってちゃんかぁ。
実際は死ぬ気もないのに、死ぬ死ぬ言って
僕の注意を引きたかっただけの迷惑な女」

SE：歩み寄る足音

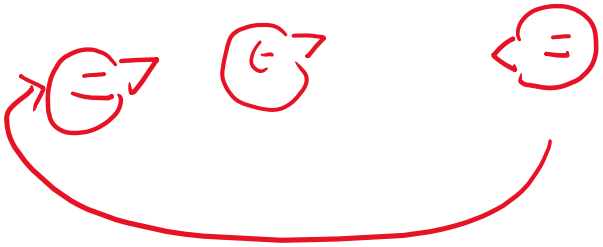
【西郡、ここからしゃべりながらヒロインに歩み寄る】

【9→11→5の順に近づいていく】
西郡「初めて会った時から感じてたよ。
君のその、悲劇のヒロイン的な性格。
僕だけじゃない。みんな思ってることだ」

【3　背後から】
西郡「あぁ、そうそう。僕が君の女友達といた理由だけど……
相談に乗ってもらってたのさ。
君がどれだけ迷惑で困り果てた女なのかを話してね」

西郡「みんな驚いてなかったよ。
〝あぁ、あの子はそういうところありますよね〟って、
僕に同情的だった。
僕の目の前で、君への連絡先を削除した子だっている。
最近友達が冷たいなぁって、思ってただろ？
孤独を感じただろう？
だけど僕がいたから耐えられた。
でも、その僕も消えて……
自分の存在価値がわからなくなった。
当然だよね。君には最初から、存在価値なんてないんだから」

西郡「でも、君が今、僕の前で本当に死んでくれれば、
僕は君を好きになるよ。
どう？　死にたくなってきたんじゃない？」



【ヒロイン「出ていって」と叫び、西郡を睨む】

【3から、怒鳴られてやや引く感じで】

西郡「おっと……！

あーあ。ヒステリックに怒鳴り散らして、見苦しいな。

残念だよ。死ぬ勇気すらないなんて。

逸材だと思ったんだけど、僕の目がくるってたみたいだな。

ま、死にたくないなら好きにしたらいい。

このマンションは僕名義だし、

もう解約するから出ていってもらうけどね。

ホームレスにでもなんにでもなって……あぁ、そうだ」

【西郡、ヒロインに背を向けて歩き出す】

【9→15→13　ヒロインに背を向け　遠ざかりながら】

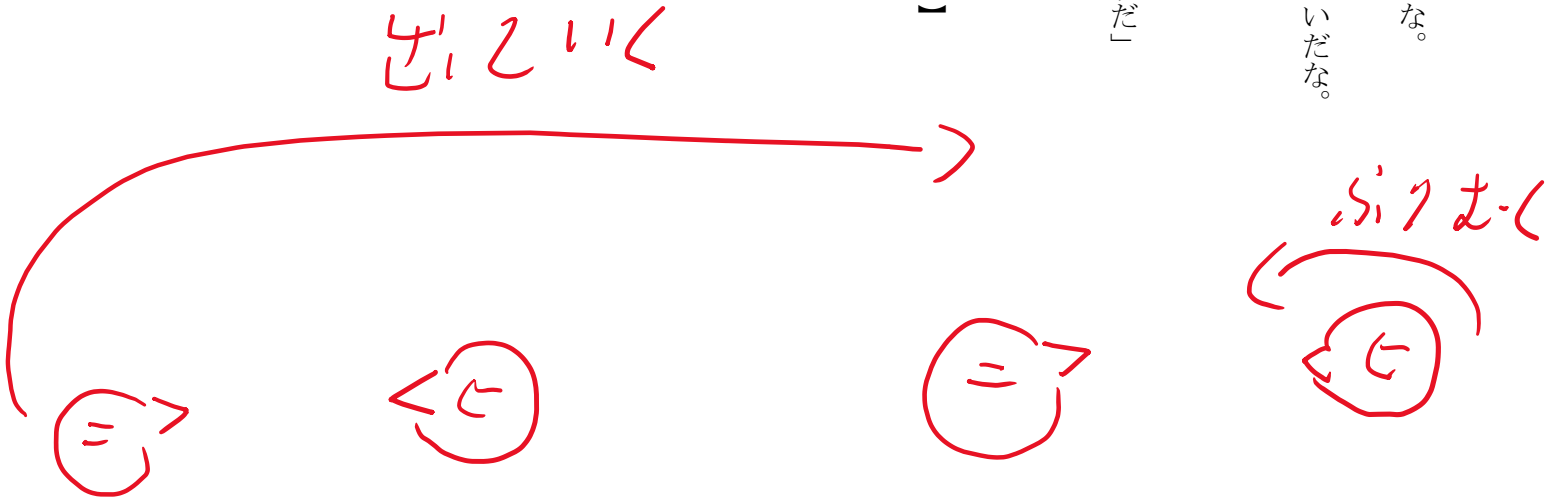
西郡「また本当に死ぬ気になったら、連絡してくれ。

さよなら、僕の〝十五人目〟のなりそこないさん」

SE：遠ざかる足音

SE：玄関のドア開閉

SE：ドア向こうで遠ざかる足音



■場面転換

回想を終え、再びサロンへ。

BGM：フェードイン

【怒りに燃えるヒロインを、優しく励ますコンシェルジュ】

【1】

コン「あぁ……おかわいそうなお客様。
あなた様の怒り、憎しみ、そして覚悟、
とてもよくわかりました。
ご安心ください。
私がお客様の復讐をお手伝いいたします。
おぞましい詐欺師の面の皮をはいでやりましょう。
さぁ、顔を上げて。
一緒に復讐の準備を始めましょう」

■トラック２　時間をかけて

手錠で拘束されてる西郡の皮膚を、硫酸で焼く虐待をくわえる。

時間：不明
場所：どこかの部屋

【鉄パイプ製の寝台に、ベルトで仰向けに拘束されて眠っている西郡に、ヒロインがバケツで水をかけて目覚めさせる】

SE：バケツで水を頭からかける

【１　下から】
西郡「（水でむせて激しく咳き込む）
なんだ……！？　これ、どうなって……！」

【手足を動かそうとし、拘束されてることに気づく西郡】

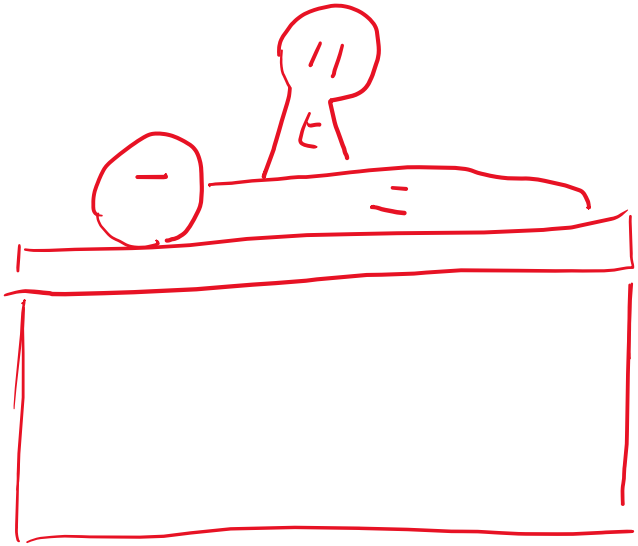
SE：ガタガタ！

【すぐそこに立ってるヒロインに気づく西郡、しかし名前は思い出せない】

【１】
西郡「君は……
あぁ、ええと……確か……」

【ヒロイン「覚えてないの？」】

西郡「お、覚えてる！　覚えてるさ。
けど、名前は……お、覚えられないんだ。
知ってるだろう？
僕は、人の顔と名前を覚えられなくて……
けど、わかるよ。雰囲気で。
君は、十五番めの――」



【ヒロイン「なりそこない」】

【1】

西郡「あぁ、そうだ。
なりそこないだ。首を吊らなかった子。
それが……はっはは……！
驚いたな。こうなるのか。本当に驚いた。
死ぬ勇気はなくても、
犯罪に踏み切る勇気はあったんだな」

西郡「あぁ、くそ……体が震える。
覚悟はしてたんだけどな。いつかは復讐されるだろうって。
けど、あっはは……！　本当に怖いな。
なぁ、教えてくれ。
僕をどうやって殺す気だ？」

【ヒロイン、西郡に硫酸の瓶を見せる】

西郡「なんだ、その瓶……薬品？」

SE：ガラス瓶の蓋を開ける
SE：液体をかける音
SE：蒸発音

西郡「あぁあぁぁ！？　あ、熱い！
熱い！　手が……手が焼ける！
なんだこれ……！？　硫酸か！？」

SE：ガタガタ！
SE：ガラス瓶で液体を揺らす音

【ヒロイン、瓶を西郡の顔に持っていく】

【1】
西郡「ま、待ってくれ！　顔はよせ！
頼む！　それは無理だ！
本当に無理なんだ！
頼むやめてくれ！　やめろ！　よせぇぇえ！」

SE：液体をかける音
SE：蒸発音

【1】
西郡「ぐぁあああぁあああぁ！
あぁ、ああぁあ、顔が！　顔がぁあぁ！
熱い、熱い熱い痛いいいいぃ！
頼む、水をかけてくれ！
頼む、頼むから！」

SE：ホースの水で硫酸を洗い流す※トリガー式のホースと思ってください

西郡「はぁ……はぁ……ッ！
くそ、あぁ……こんな……
こんな殺し方か……！？
これが僕にふさわしい死に方だって！？」

西郡「僕は少なくとも、死に方は本人に選ばせただろう！
みんな自分の死にたいように死んでいった！
勝手に絶望して、勝手に自分で死を選んだんだ！」

西郡「【懇願】頼む……僕にも死に方を選ばせてくれ。
君が望むなら、今ここで、自分で死ぬから」

【ヒロイン「死んでほしいわけじゃない」】

西郡「……どういう意味だ？
死んでほしいわけじゃないなら、
なんでこんなこと……！」

【ヒロイン「苦しめたい」】

【1】

西郡「それが、目的……？
僕を苦しめることが？
は……はは……！　ははははは……！
とんだサイコパスじゃないか！
じゃあ今度はどうする？　傷に塩でも塗るのか？」

SE：瓶の蓋を閉める
SE：瓶を置く
SE：タバスコのビン手に取る
SE：瓶を振る

西郡「それ……タバスコ？
【恐怖で過呼吸が出る】はっ、はっ、はっ……ッ！
どうしたらやめてくれる？　なぁ？
どう謝ったら助けてくれる！？
やめろ……やめろやめろやめろやめてくれ！
頼むからぐぁあぁぁあぁ！」

SE：ばしゃって感じの水音

西郡「あぁ……あぁあ、あ……
い、息ができない……！
息が、くるし……ベルトを外してくれ……！
腕のベルトだけでいい！
頼む、頼むよお願いだ！」

【ヒロイン「だめ」】

西郡「畜生！　どうかしてる！
普通はどんなに人を憎んでも、
そんなことできやしない！
できやしないんだ……！」

【1】

西郡「【泣き笑い】僕だってできない。
人が死ぬ瞬間は楽しめても、
痛みにもがく姿なんて楽しめない……。
許してくれ……嫌だ……
痛いのは嫌なんだ……！
死なせてくれ、頼む……頼むから……！」

SE:でかいハサミ取り出す
SE:威嚇でシャキシャキ

西郡「今度はなんだ……？
ハサミなんかで、何を……あが！？」

【ヒロイン、ペンチで南部の舌引っ張り出す】

西郡「あ、が……！
あぁ……あぁあ！」

【ヒロイン、西郡の舌先を縦に切る（スプリットタン状態）】

SE:シャキシャキ
SE：肉を切る
SE:血が溢れる

西郡「（悲鳴を上げ、自分の血でおぼれる）」

SE:ハサミとペンチすてる

西郡「ごほ！　ごぼ……っ！
あああぁ、あぁあぁ！　舌が……舌が……！」

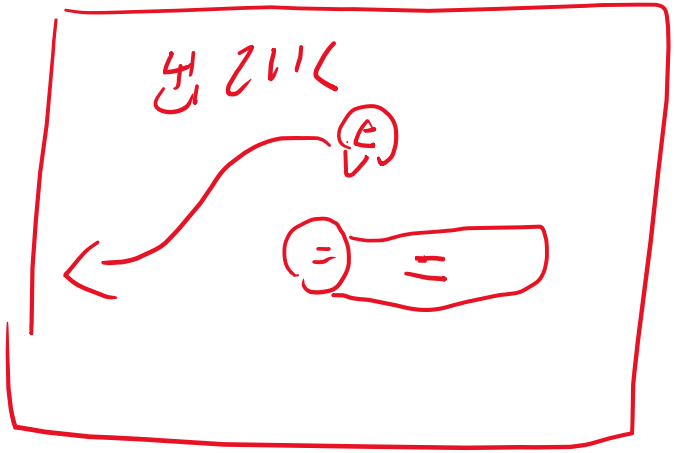
【ヒロイン、西郡に背を向けて歩き出す】

【5→13　遠ざかりながら】
西郡「おい、どこへ行く？
待ってくれ、おいて行くな！
殺してくれ！　本当に耐えられないんだ！
頼む、殺してくれ！　殺してくれぇぇぇ！」

SE：背後でドアを閉める音

【ドア向こうでコンシェルジュが待っている】

【1】
コン「お疲れ様でございました。
ご安心ください。
できるだけ長く生き延びるよう、当方で治療を施しておきます。
しかし、それでもどれだけ持ちこたえるか……
もしお客様に、彼を許すお気持ちがあるのなら、
お早目のご決断を」



■トラック3　お似合いの二人

【1】

コン「【優しく】そうですか。彼を、お許しになるんですね。
ではご希望通り、治療の上解放いたします。
ええ。大丈夫ですよ。復讐の形は人それぞれ。
傷を抱えたまま社会に戻すのも、また復讐でしょう。
どうぞ、お幸せに」

■場面転換

【解放された西郡は行かず、すぐにヒロインを探し出す。今まで女を死に追いやって来たが、拷問によってヒロインに執着を覚える】

【アパートの一室のチャイムを鳴らす西郡】

SE：チャイム
SE：ドアガチャ

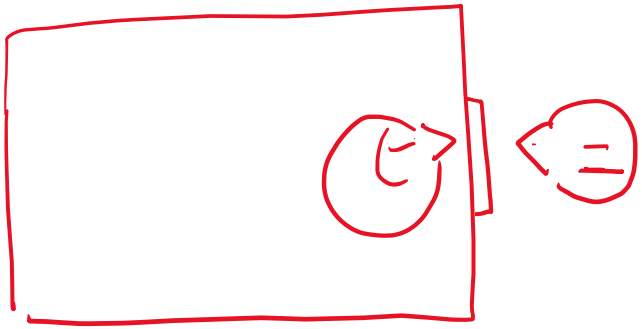
【1　二歩くらい離れて】

西郡「あ……
あ～……困ったな。
こんなにあっさりドアを開けてくれると思ってなくて、
逆になんて言ったらいいか……」

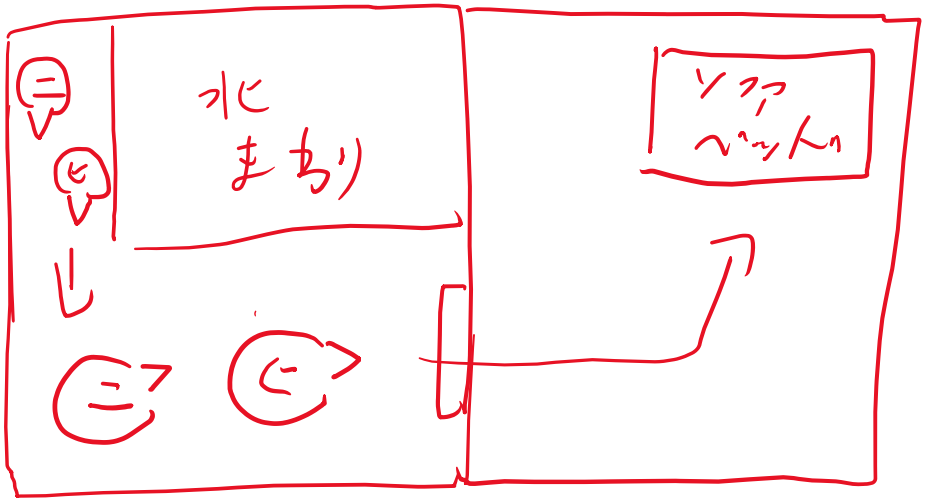
【ヒロイン「警察に行かなかったの？」】

西郡「警察？　【笑って】行けるわけないだろ。
僕だって、いろんな女性を騙して、追い詰めて、
十四人も自殺に追いやってるサイコパスだ。
あいつらにも監視されてるらしいしね。
それに……別に僕は君を恨んでない」

【ヒロイン「？？？？」】



【1　二歩くらい離れて】
西郡「部屋、上がっていいかな？」
【ヒロイン「どうぞ」】
西郡「【笑って】普通に上げてくれるんだ。
どうやって君の部屋に上がり込もうか、
あれこれ考えてた時間が馬鹿みたいだな」
SE：二人分の足音
SE：西郡が靴を脱ぐ
SE：ヒロインサンダルを脱ぐ
【6　かたわらに立つ距離】
西郡「おじゃまします」
SE：スリッパの足音二人分
【15　きょろきょろしながら】
西郡「ふーん……物がほとんどないね。
この前までは、ぬいぐるみとか沢山おいてたのに。
――で、ベッドがソファ代わりか……」
【ヒロイン「座って」】
西郡「ん？　いいの？
じゃあ、座らせてもらうね」
SE：ソファに座る音
SE：ソファに座る音（左隣）



【3　隣に座る距離　9の方を見ながら】
西郡「本当は、ここには来ないで死のうと思ってたんだ。
君にボロボロにされて、毎日死を願ってたせいかな。
こうして治療されて、解放されても、死にたいって気持ちが消えないし、
人を陥れて、絶望する顔を見るのが好きだったのに、
もう誰かを傷つけたいって気持ちもなくなった」

西郡「でも死のうとした時、
急に、君の名前を思い出して……」

【3　ヒロインを見て】
西郡「死ぬところを、君に見ててほしいと思ったんだ。
【慌てて】あ、今すぐじゃないよ！
君がそんなつまらないことを望まないのはわかってる」

【ヒロイン、西郡を見る】

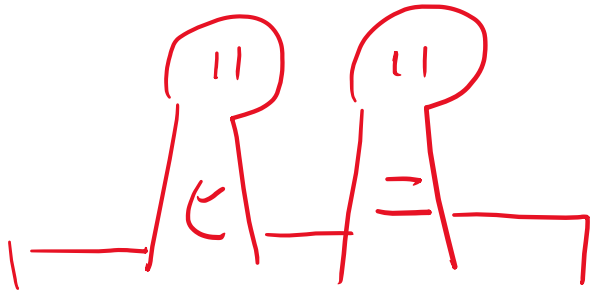
【1】
西郡「君は本物だ。
僕みたいな小物じゃない。
君に死なせてくれって頼むたびに、
僕は自分がやってきたことの
幼稚さが恥ずかしくなった」

西郡「自分でもわけがわからないけど、
君のそばにいたいと思ったんだ」

【西郡、ヒロインに向かって身を乗り出す】

SE：衣擦れ
SE：ソファの軋み

【1　顔を近づけて】
西郡「君はこれからも、僕以外の誰かに苦痛を与える？
僕以外を捕らえて、硫酸で顔を焼く？」



【ヒロイン「やらない」】

【1】

西郡「そうか……じゃあ、僕だけなんだね。
僕が君の最初で、最後の犠牲者だ。
それが凄く特別だって感じる」

西郡「君が硫酸で焼いたこの顔を、
誰もまともに見ようとしない。
でも、君は目をそらさないんだね。
あぁ……今すぐ君にキスしたい。
何度も、何度も、心にもない〝愛してる〟を君に囁いたけど……
これは本気だ。
愛してる、愛してる」

【ディープキス30秒程度】

SE：ソファベッドに押し倒す

西郡「あぁ……虫でも見るようなその目、その顔。
君はその目で僕の皮膚を焼いて、骨を溶かし、
舌を二つに裂いたんだ。
わかるかい？　あの痛みと絶望を思い出すだけで、
こんなに硬くなってる。
君も思い出してくれ。
僕を苦しめてた時、どんな感情だったか。
悲鳴を聞いて興奮した？
君のここは濡れていた？」

SE：服を脱がす衣擦れ

【ヒロインはされるがままになっている】

【1】
西郡「足を開いて。僕に全部見せてくれ」

SE：濡れた音

【1→7耳元】
西郡「あぁ、ほら……もう濡れてる」

SE：手マンの水音ゆっくり

【7　耳元】
西郡「君は男の悲鳴を聞いて喜ぶ、変態の異常者だ。
どうして今まで、誰にもバレずにいられたんだい？
隠してた？　自分でも気づいていなかった？
僕が君を見つけたんだ。
君の異常さを、僕にだけ見せてくれた。
あぁ……異常者って言われるたびに、
中が締まって、あふれてくるね」

西郡「いいよ、そのままイって。
君が焼いた僕の指で。
耳、舐めてあげる。これ、好きだったでしょ？
耳舐められながら、ただれた指でお腹の中こすられて、
僕みたいな虫ケラにイかされるところを見せてくれ」

【耳舐め1分程度】

SE：体が跳ねる衣擦れ
SE：ソファの軋み

西郡「イった？　イったね。
いい声だ……我慢するような、悲鳴みたいな……
僕も君を苦しめたい。
泣いて悲鳴を上げさせたい」

【西郡、焦れた感じでズボンをおろし、本番へ】

SE：ベルト外す
SE：ズボンのボタン外す
SE：ファスナーおろす
SE：衣擦れ
SE：触れる水音

【1】
西郡「いれるよ。力抜いて。
あ、あぁ……ッ」

SE：奥まで挿入

西郡「あぁ、熱い……ッ
奥の方、きつくて……ッ
鳥肌が収まらないな。
何度も抱いた体なのに、初めてみたいだ。
動くよ、ほら……ぎりぎりまで引き抜いて……」

SE：引き抜く水音

西郡「奥まで一気に、こうやって……ッ！」

SE：激しめの水音
SE：肉を打つ音
SE：ソファの軋み

西郡「ふふ、またイった。
これ、好きなんだよね？
何度でもえぐってあげる。
ほら、叫んで、ほら……！」

SE：激しめの水音
SE：肉を打つ音

【吐息のみ1分程度ください】

【1】
西郡「はは、あはははは……！
奥を乱暴に突かれるたびに、
我慢できずにイって、イって、何度もイって……
僕を虫ケラみたいに見る目はどうしたの。
ゴミを見る表情は？」

西郡「あぁ、ダメだよ。腰、逃がそうとしたら。
君は泣きわめく僕のベルトを、
少しも緩めてくれなかった。
だから僕も逃がさない。
君もそうされるのが好きだろ？」

【吐息のみ1分程度ください】

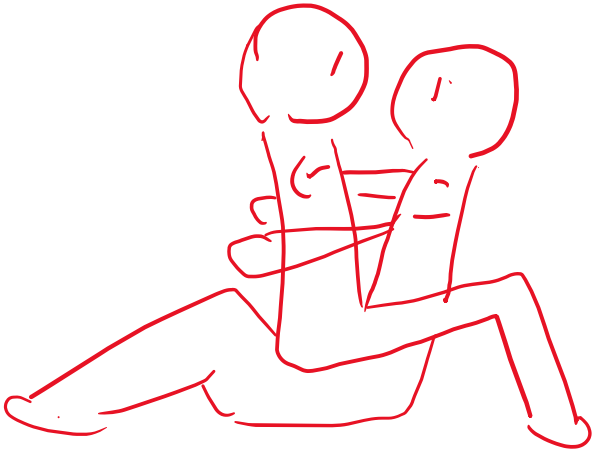
【ヒロイン、悲鳴を上げて絶頂】

SE：絶頂時の激しめの衣擦れ
SE：ストップ

西郡「おっと……あぁ、今のは僕も危なかった。
けど、まだまだ。
ほら、体起こして、こっちきて。
抱き合ってするの、好きだろう？
奥に痛いくらいぐりぐり当たるから」

SE：ソファの軋み
SE：衣擦れ

【3】
西郡「僕も好きだよ、抱き合ってするの。
押し殺した小さな悲鳴もよく聞こえるから。
今までで一番激しくしてあげる」



【吐息のみ1分程度ください】

SE：激しめの水音
SE：肉を打つ音
SE：ソファの軋み

西郡「またイキそう？
いいよ。キスしながら、一緒にイこう。
ん、んぅ……」

【キスハメ1分程度で、やりやすいタイミングで終わらせてください】

SE：ストップ

【1】

西郡「【しばし呼吸を整え、深呼吸】
あぁ……幸せだ。生まれて初めてそう感じる。
愛してるよ。
僕の初めてで、唯一の、愛しい愛しい加害者さん」

END